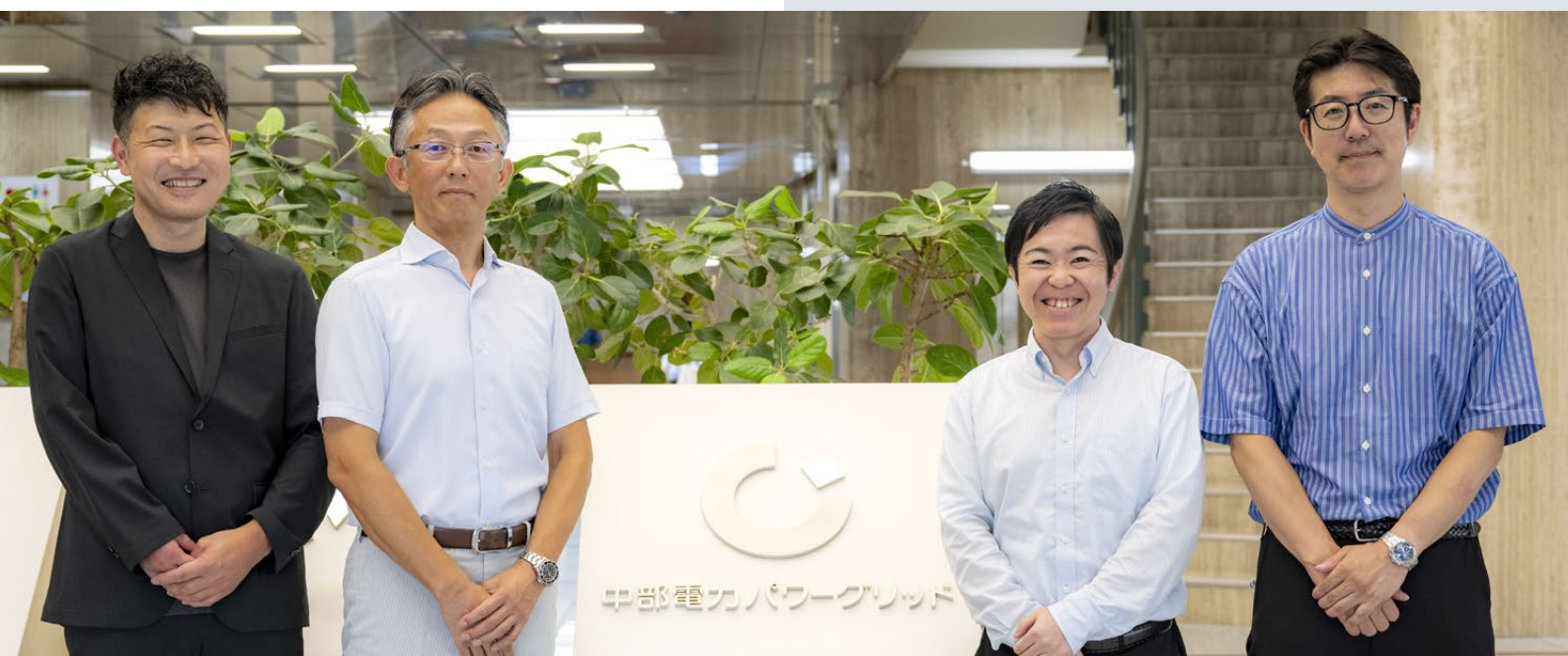


SkyPDF®を活用したDXで 業務変革を実現



featuring:

中部電力パワーグリッド株式会社様



中部電力パワーグリッド

中部電力パワーグリッド株式会社様 「用地総合管理システム」開発プロジェクト

2021年に発表された「中部電力グループ 経営ビジョン 2.0」の下、デジタルトランスフォーメーションへの取り組みを加速している中部電力パワーグリッド様。その中でも主要施策のひとつに挙げられている「業務の変革」の一端を、スカイコムの「SkyPDF® WebAPI」が担っている。PDFを活用することで、当初の構想を上回るペーパーレス化を実現した、同社の「用地総合管理システム」。同システムに「SkyPDF®」が選ばれた経緯や、その成果について伺った。

SkyPDF[®]を活用したDXで 業務変革を実現

ペーパーレス化のきっかけは、書類を手で地権者を回る担当者の声

中部電力パワーグリッド株式会社は、2020年に設立された中部電力グループの一般送配電事業を担う会社である。

発電事業者から送り出された電気を、送電線や変電所、配電線などの「電力ネットワーク」を通じて、各家庭や企業といった需要家に送り届ける役割を担っており、中部電力の事業エリアである愛知、静岡、三重、岐阜、長野の中部5県への安定した電力供給を支えている。

その電力ネットワークの中でも、私たちになじみが深いのは、山間部から都市部まで広範囲に電気を届けている送電線だろう。現在、中部電力管内には総延長約1万2,000kmの送電線が設置されているが、その建設や維持・管理を行っているのも同社である。

「当社の用地部門では、送電線や変電所等の設備設置に必要な土地の取得・管理を行っております。ただ、中でも個人の地権者との関わりが深い送電線建設・更新工事に必要な土地の取得に伴う補償手続きが煩雑化しており、その改善を求める声が現場から挙がっていました」と、同社用地部の比奈地主任は振り返る。

「送電線工事の場合、铁塔設置場所となる土地だけでなく、工事に必要な資機材等の置き場として一時的にお借りして使用する土地についても地権者のご理解が必要であり、地権者ごと、土地一筆ごとに担当者が何度も足を運んで丁寧に説明して補償内容や契約内容を詰めていきます。契約についての合意を得ると社内手続きに進みますが、契約に向けた社内手続きは紙で実施していたため、これまでは担当者が会社に戻ってきた後に紙帳票を作成し、回付の上、承認者に押印をもらうという社内承認の手続きを行っていました。また地権者との間では、工事が完了した後、一時的にお借りしていた土地を地権者と立ち会いの上でお返しすることになりますが、その際、手続きが完了したことを確認する差し入れ形式の書類（確認書）を地権者から受領していました」

このような確認書の中には、地権者と合意したことを記録するために署名が必要なものも多い。これまでは担当者がその都度必要な帳票を作成して事前審査を行い、それをプリントして地権者に署名いただいた後、支社に戻って社内報告するというプロセスを踏んでいたという。「契約内容によっては一筆あたり何種類もの書類を用意することになります。その準備だけでも負担が多い上、個人情報の取扱いにも注意する必要があります。また、铁塔建設予定地は山間部にあることも多く、現地の確認のため地権者と立ち会いを行うと移動だけで1時間、2時間かかる場合もあります。万一書類のもれや記入ミスがあった場合はリカバリーが難しいので、心理的な負担も少なくありませんでした（比奈地氏）」

加えて、受け取った書類は工事完了後も一定期間保管することが決まっており、さらに工事の工期そのものが10年を超えるような大規模な案件も少なくないことから、保管スペースの確保も長年の課題になっていた。

「そこで、電子サインを活用してこれら社内手続き用と地権者対応用の紙書類を電子化することで課題を一気に解決できないかと考え、システム部に相談しました（比奈地氏）」



中部電力パワーグリッド株式会社
用地部 副長：松岡 弘樹様（上）、主任：比奈地 監様（下）

最小限の変化で最大限の業務改革を その突破口を開いた「SkyPDF®」

比奈地氏から最初に相談を受けた、システム部の長崎主任。氏が最初にイメージしたのは、Webを使って帳票を電子化し、タブレットに表示して地権者に電子サインをもらう方式だったという。ただし、この方式は、当時の承認フローに乗せるためにWeb帳票を紙に出力し、承認後に紙をスキャンしてPDFで保管するという構想であったため、完全なペーパーレス化にはつながらないという課題があった。

「せっかく書類の受け取りまでを電子化したのに、社内に戻ってそれをプリントするというのはどう考えても不合理です。かと言って新しく承認システムを開発し、それを手間暇かけて社内に浸透させていくのでは、業務の効率化を求める現場の同意は得られない。従来のやり方はそのままに、業務フローだけをデジタル化できないか——。そう頭を悩ませていた時に、突破口を開いてくれたのが『SkyPDF®』でした」

長崎氏が続ける。

「正直に言えば、それまでPDFに持っていたイメージは『長期的な保管に適した安全な電子書類』といったもので、後から情報を追加したりその記録をタイムスタンプで残したりしながら、継続的に運用していくという発想はありませんでした。しかしスカイコムから金融機関などの事例を紹介していただく中で、これなら後方業務も一気にデジタル化できるという確信を持つことができました。特に、印影を情報として追加できるというのは当社の承認フローにマッチしていて、書類の受け取りから保管まで、スッと串が通ったような、そんな気持ちになりましたね」

また、従来の帳票を見た目そのままにPDF化できる点も大きなポイントだったという。

「当初、開発者としては、Webシステムよりも効率的に開発できるという部分に注目していました。しかしユーザー目線に立つと、これまで使い慣れた帳票と同じ見た目であるというだけで、受け入れのハードルがぐんと下がるんですね。これまでは社内システムを更新するたびに時間をかけてユーザー教育をする必要がありましたが、今回はほとんどその必要がなかった上、すぐに便利さを理解してもらえたというところに、それが表れていると感じています。この直観的な使いやすさは、

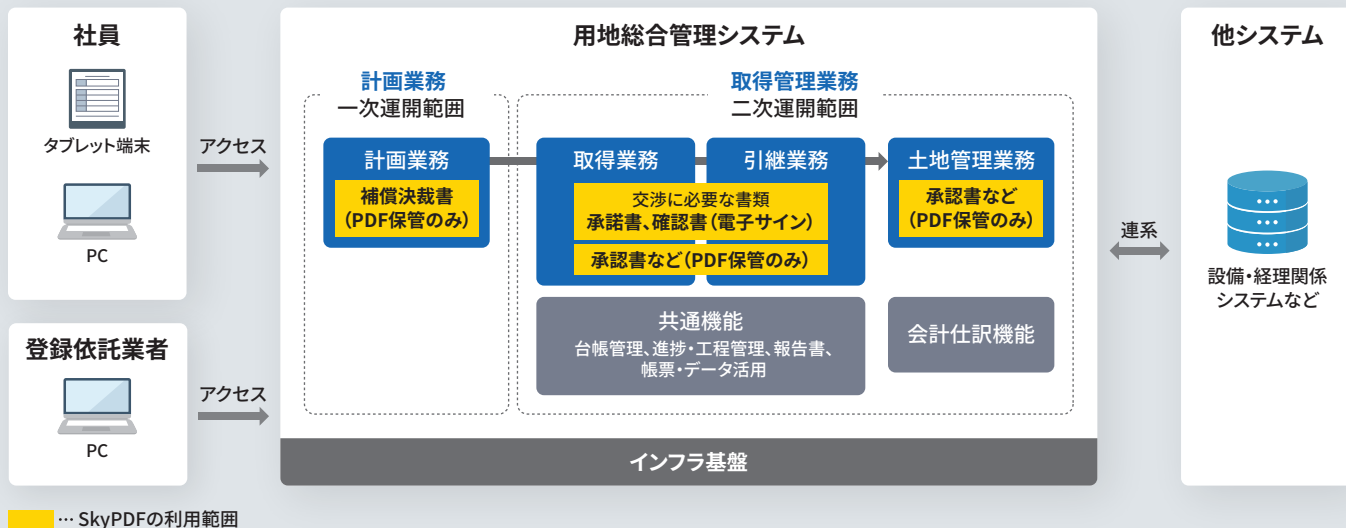


システム部 課長:井上 裕成様(上)、主任:長崎 吉朗様(下)

電子サインをいただく地権者や電子印鑑を押す承認者にも同様で、業務のやり方を抜本的に変えたにも関わらず、戸惑いや混乱の声がほとんどありませんでした。『ここにサインすればいいんだよね』『ここに電子印鑑を押せばいいんだよね』といった感じで、非常にスムーズに導入できたのが印象に残っています」

「今回は開発期間の都合もあってシステム部で帳票開発を行いました。難易度としては、業務担当者でも内容の修正や新規作成ができると考えています。そういった部分も含めて、さらに効率化を進めていけると期待しています」

システム概要図



DB連携により、作業時間の削減と高精度を両立 他部門・他業務への展開に期待

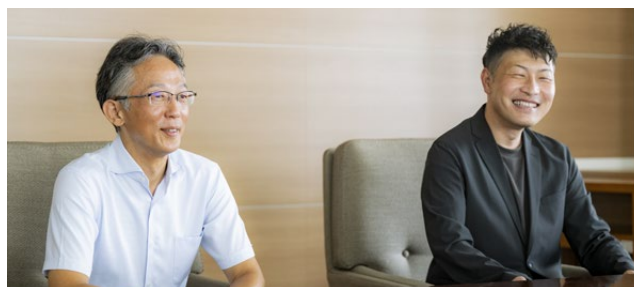
こうして2023年に構築された「用地総合管理システム」。法的に紙文書が求められる契約書を除いて、用地取得に関わる全帳票の準備から署名、承認、保管までのペーパーレス化を実現した。このインタビューを行ったタイミングでは、まだ導入から間もないこともあって定量的な成果は未集計とのことだが、現場の反応は上々だという。

「このシステムでは、これまで帳票ごとに入力していた地権者の名前や土地の情報をデータベースと連携することで、タブレット上でいつでも必要な帳票を呼び出すことができるようになっています。それにより、これまでのように地権者への訪問前に1件1件必要事項を入力する必要もなくなり、準備にかかる時間を飛躍的に削減できました。また、帳票の記入漏れなども発生しないので、帳票を作り直して再訪問するといった事態はほぼゼロになっているのではないのでしょうか(長崎氏)」
「これまででは支社に戻ってから書類をまとめて承認に回していましたが、今では出先で承認申請を行うことで即時にワークフローが走るの

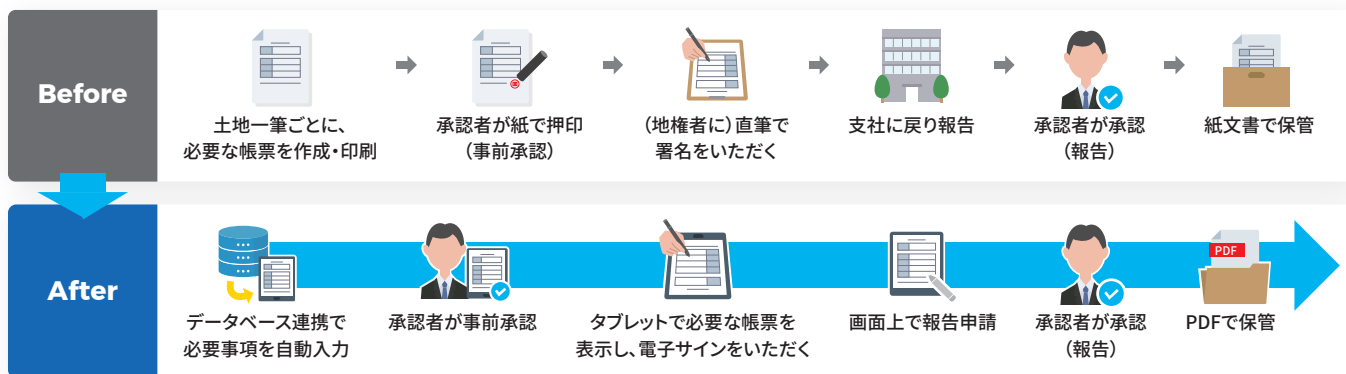


で、承認にかかる時間も一気に短縮されています。また、これまで押印が必要だった支払い関連の承認や手続きもペーパーレス化されている上に精度も向上しているので、確認にかけていた時間も考えれば、かなりの業務効率化が実現できている実感があります。紙と違って同時に複数人でチェックできるので、承認者のうち誰かが不在でも、他の承認者がカバーして業務を進められるようになったのも、従来からの大きな改善点です(比奈地氏)」

「今回の『用地総合管理システム』は用地部専用でスクラッチで開発したため、直近では他部門への展開などの予定はありません。ただし、当社には用地部の他にも申込関連の業務を行っている部門がありますし、業務の非対面化など、多様な働き方の実現にも大いに活用していけると考えています。1年後には1件あたりの業務時間や紙文書の削減率などの効果測定を予定しているので、まずはその結果が楽しみです(長崎氏)」



確認書の受領・承認・保管のすべてをペーパーレス化!



導入製品

 **SkyPDF® WebAPI**

スカイコムが長年にわたり培ってきたPDF技術を、ウェブ環境でも柔軟に利用できるようにするためのAPI群です。REST I/Fを利用してこれらの機能を提供します。本製品を利用することでWebシステムや、WebアプリケーションからのPDFドキュメントコントロールが容易に実現でき、短期間・低コストでのシステム構築、アプリケーション開発が可能となります。



株式会社 **スカイコム**

<https://www.skycom.jp/>

本社：〒101-0023 東京都千代田区神田松永町19 秋葉原ビルディング10階 TEL: 03-5289-0788 FAX: 03-5289-0783
R&Dセンター宮崎：〒880-0801 宮崎県宮崎市老松2-2-22 JR宮交ツインビルオフィス901